

中国と日本の大学生における中国武術太極拳の認識の違い

張 成兵*, 張 成忠*, 范 永輝**

はじめに

日本の大学の授業として中国武術太極拳を愛知大学が初めて取り入れ、現在に至ってもはや17年が過ぎた。

当初、日本の大学生は中国武術太極拳に対して全く知らなかったが、現在では多くの大学生が太極拳に対してある程度の理解をもち、さらに、目新しさにより、多くの人々が中国武術太極拳に対してある程度の興味をもっているようである。

これまで筆者も愛知大学でこの授業を担当してきており、学生を指導した上で、彼らが動作をするときに彼らが抱いている具体的なイメージは、干淨利落（けがれなく整然とした様）、連貫流暢（一貫して流れがよい）というものである。また、太極拳の中の修身養性（心身の修養）、心身の健康増進および太極拳思想はある程度理解されているようである。しかし、中国武術太極拳は日本の大学生にとっては外来文化であり、その理解は未だ中国の大学生が抱いているイメージとはかけ離れているのかもしれない。

そこで本研究は、中国武術太極拳に対して、中国武術の魅力と中国武術の普及を妨げる原因について、日本人大学生が抱いているイメージと中国人大学生が抱いているイメージを比較することにより、どの程度の認識の違いがあるのかを明らかにし、今後、中国武術太極拳を日本人学生に教育する上での基礎資料とすることを目的とした。

方法

自由記述式のアンケート調査を実施した。調査対象は、日本人は愛知大学の学生（以下日本人学生と称す）であり、男子10名、女子35名

であった。中国人は、南京体育学院の学生（以下中国人学生と称す）男子44名と女子19名であり、体育を専門的に学んでいる学生であり、その中には中国武術太極拳の専修学生が含まれていた。

自由記述式アンケートの問は、二つからなっており、一つは「中国武術太極拳の魅力について」の設問であり、他の一つは「中国武術太極拳普及を阻害する原因について」の設問であった。表1にその質問事項を示した。また、アンケート終了後、個別面談を行ない記述内容の確認をした。

表1 アンケートの設問内容

(一) 中国武術の魅力について (自由に書いてください)
(二) 中国武術の普及に妨げになっている原因について (自由に書いてください)

結果

自由記述式により回答を得て、個別に学生と面談を行ない、その内容を確認して回答の多かったものから第5位までの割合を国、性別毎に表2～表5に示した。

1) 中国武術の魅力について

中国人学生の男子では、「体を鍛える」が77.3%と最も多く、次に「護身として身を守る」と「鑑賞できる」が続いた。中国人学生の女性では、「体を鍛える」が31.6%と最も多く、次に「娯楽性があり鑑賞もできる」と「健康に良い」が続いた。

一方、日本人学生の男子では、「未経験で珍

* 愛知大学非常勤講師

** 四国大学生生活科学部

表2 中国人大学生男子のアンケート結果

(N = 44)

(一) 中国武術の魅力	
1. 体を鍛える	77.3%
2. 護身として身を守る	59.1%
3. 鑑賞できる	52.3%
4. 辛い練習により精神が鍛えられる	50.0%
5. 文化的な修養がある	29.6%
(二) 中国武術の普及の妨げになっている原因	
1. マスターするまでに時間がかかる	38.6%
2. 多くの人々に理解されていない	34.1%
3. 基本功の訓練が辛い	29.6%
4. 宣伝不足、社会的影響に欠ける	27.3%
5. 身体能力に対する要求が全体的に高い	15.9%

表3 中国人大学生女子のアンケート結果

(N = 19)

(一) 中国武術の魅力	
1. 体を鍛える	31.6%
2. 娯楽性があり鑑賞もできる	26.3%
3. 健康に良い	15.8%
4. 年齢に関係なく行える	10.5%
5. 人の品性を陶冶する	10.5%
(二) 中国武術の普及の妨げになっている原因	
1. マスターするまでに時間がかかる	21.0%
2. 練習過程に面白みが欠ける	21.0%
3. 難度の高い動作は怪我をしやすい	15.8%
4. 武術動作は把握しにくい	15.8%
5. 基本功についての要求が高い	10.5%

表4 日本人大学男子のアンケート結果

(N = 10)

(一) 中国武術の魅力	
1. 未経験で珍しい	20.0%
2. 楽しい	20.0%
(二) 中国武術の普及の妨げになっている原因	
1. 練習場所が狭い	40.0%
2. 太極拳はゆっくりすぎて繰り返が多い	20.0%

表5 日本人大学女子のアンケート結果

(N = 35)

(一) 中国武術の魅力	
1. 心が落ち着く、自分のペースで無理なくできる 緩慢な動作、老若男女誰でもできる	42.9%
2. 棍の組み手対打	40.0%
3. 棍を回すことが楽しい	22.9%
4. 未知の世界が体験できる	20.0%
5. 運動不足が解消される	8.6%
(二) 中国武術の普及の妨げになっている原因	
1. 練習場所が狭く棍が振り回せない	40.0%
2. 武術の動作がマスターできない	28.6%
3. 太極拳動作は覚えにくい	25.7%
4. 太極拳はゆっくりすぎて眠くなってしまう	22.9%
5. 棍が重い	8.6%

しい」が20.0%と最も多く、次に「楽しい」の回答だけであり、その他は未回答であった。また、日本人学生的女子では、「心が落ち着く、自分のペースで無理なくできる緩慢な動作、老若男女誰でもできる」が42.9%と最も多く、次に「棍の組み手対打」と「棍を回すことが楽しい」が続いた。

2) 中国武術の普及の妨げになっている原因
中国人学生の男子では、「マスターするまでに時間がかかる」が38.6%と最も多く、次に「多くの人々に理解されていない」と「基本功の訓練が辛い」が続いた。また、中国人学生の女子では、「マスターするまでに時間がかかる」が21.0%と最も多く、次に「練習過程に面白みが欠ける」と「難度の高い動作は怪我をしやすい」が続いた。

一方、日本人学生の男子では、「練習場所が狭い」が40.0%と最も多く、次に「太極拳はゆっくり過ぎて繰り返しが多い」のみの回答であった。また、日本人学生の女子では「練習場所が狭く棍が振り回せない」が40.0%と最も多く、次に「武術の動作がマスターできない」と「太極動作は覚えにくい」が続いた。

論議

中国武術には何千年もの歴史がある。太極拳に限っても何百年の歴史があり、中国武術太極拳は中国の土壌で誕生してはぐくまれたもので、果てしない歳月が経過し、自然に中国文化の薫陶を受け、中国の儒家、道家、仏家とは切っても切れない結びつきを持つ。特に太極拳は、道家思想とさらに深遠な源縁をそなえている。太極拳理論は道家思想を完全なまでによりどころとしているといわれている。

本研究結果からは、中国武術の魅力についての設問に対する中国人学生と日本人学生の回答は、明らかに異なっていた。中国人学生では、中国武術太極拳の魅力について、多かった回答の第3位までは、身体と精神の鍛錬、自己防衛、娯楽鑑賞、健康増進であった。また、身体と精神を強健にすることは、男女とも1位であり、中国武術太極拳の強身健体という効能は中国人学生で認識されていた。

中国武術太極拳は、一つだけの身体素質を具えることを要求しているだけでない。さらに重要なのは武術太極拳動作の特色となる必要性とは、身体が具え持つ全面的な身体素質を非常に高く要求しているわけである。例えば、低姿勢の武術、弓歩の動作は腿部の力の要求が非常

に高い。騰空二起脚という跳躍動作は弾力性の要求がたいへん高い。高踢腿（足を高く蹴り出す）、朝天蹬（片足を片手で持ってバランスをとる）などはしなやかな強靱性の要求がたいへん高い。腰翻動作は、速度、敏捷性、協調性を組み合わせた一連の武術動作で要求はさらに厳格である。

いくつかの武術に関する書物には、「套路運動の練習を通じて、身体は速度、力量、敏捷、協調や忍耐力などの素質および勇猛、頑強、強靱でゆるぎない意志を発達させるのに有利である。」（『武術』①より抜粋翻訳）、「(体の)内外をすべて練磨し、内壯外強を求めることによって、心身全体の発達を獲得する。近年の研究では武術運動が身体の状態と各内部器官すべてに良い影響を与えることを証明している。」（『中国武術実用大全』②より抜粋翻訳）、「関節に良く利き、肋骨を強化し、心身を丈夫にし、臟腑の働きと経脈の流れをよくし、精神を調える。」（『理論教程』③より翻訳抜粋）などが書かれている。

中国武術太極拳の動作の特色に基づき、必ず全面的な身体能力を備えるよう要求される。そうでないと、動作における狂いのない要求を達成するのが難しくなるからである。このことが、中国武術太極拳の訓練を通じて、身体と精神を鍛錬するという重要な要因となろう。中国人学生は中国の儒、道、仏思想に影響を受け成長してきた。このような状況の下で太極拳を学習しているので、日本人学生と比較すれば差異があるのではなかろうか。

中国武術の鑑賞性については、中国人学生の男女ともに回答が得られた。古代では戦闘能力の増強、兵士の心身の鍛錬、軍隊の氣勢の増強のためであった。昔から今日まで、中国の軍隊には武術群体操練（集団武術訓練）があり、国同士の外交において、常にこのような武術体操練習方式は外国の使節を歓待するために用いられる。実際この中には既にたいへん強い鑑賞性が具わっている。特に武術套路（型）の形成は、表演の形式が宮廷、民間の遊芸場に出現したことによって、既に武術の鑑賞性を完全に定めて

しまった。

中国武術の鑑賞性が自然に美学芸術と緊密な結びつきをもっているといえば、審美の基準も厳格な規定があり、中国武術の審美基準の最たるものは中国古典美学を基礎とし、古典美学の中の陰陽を際立たせた整体美（全体のバランス）、豊かな弧線美（動作における豊かな弧形状態の追求）、抑揚転換のあるリズム美（急緩剛柔の交錯）、および道家の柔順美（動作がしなやかで強靱、よどみがない動作）を吸収してきた。

中国武術の動作一つ一つには、どれも切り離せない審美要求がある。たとえば、中国武術の中には一つの簡単な提膝亮掌（左右の手を上と後ろに開いて片膝を上げる）という動作があるが、その中にはまさに陰陽を際立たせる美、弧線美、抑揚転換の美、および柔順美が含まれている。

上方への腕を弧形に大きく開いた手の状態は豊かな弧線美を明示し、陰の柔らかさを象徴している。後方への腕をまっすぐ伸ばした鈎手（かぎの形をした手）は陽の剛さを象徴している。表現しているのは、陰も陽もある全体のバランス美であり、大きく開いた掌の前のすばやく突き出し立てた掌は瞬間的な間を伴い、抑揚転換あるリズム美を象徴している。掌を突き出す過程の柔らかい調和のとれたよどみのなさはさらなる柔順美を具体的に再現している。

これらの審美に関しても武術に関する書物に「武術運動は人に美の感性を獲得させる。ある程度人々の審美要求と享受を満足させる。このような審美価値は格闘技の美と技芸美の融合した武術美を生み出している。」（『中国武術実用大全』②より抜粋翻訳）、また、「競技場で智を競い、勇を競い、技を較べ、力を較べる対抗格闘にもかかわらず、頑強で集中した精神と臨機応変な技巧を表現し出す。套路の練習といえども形神（実態と思考力）が兼ね備わった技芸や剛と柔が起伏した風格などを示し、例外なく人を見入らせ、非常に高い鑑賞性が具わり、人に美を享受させる。」（『理論教程』③より抜粋翻訳）、「人々は鑑賞武術の運動形式を通じて、生

命が生き活きとやむことない運動、生命のはつらつとした活力を鑑賞できる。従って、我々に審美の愉悦を引き起こす。」、さらに、「かの優美この上ない剣術は、仙女が下凡し、飛び舞うがごとく、かの猛虎が下山した刀術は、暴風が波を上げ、勢い止まぬごとし。かの蛟竜が出海した槍術は、雲海が沸き立ち、稲妻が光り雷鳴が轟くごとく、かのぐるぐると巻きつける波のような姿の蛇拳、かの干浄利落（けがれなく整然とした）剽悍勇猛な南拳……あのような豊富で多彩な芸術形象は人々に美を享受させてくれる。」（『武術理論基礎』④より抜粋翻訳）、「素朴で簡潔で実用的であったものが、華麗でアクロバットの動きへと移り変わり、鑑賞性や芸術性、運動能力において大きく発展した。」（『中国武術「長拳」の特徴と変遷』⑤より抜粋）などが書かれている。

中国武術の護身と健身についての認識は、中国人学生の男女において差異があった。その原因は、性別と関係があるかもしれない。中国武術の目的の変遷も影響しているのかも知れない。中国武術は本来自己防衛を主幹としていたが、武を学ぶ目的の主流は護身となってしまった。過去は戦闘か格闘技比べかを問わず、ほとんどすべて男児のことであった。このような伝統習俗は今に至り人々にある程度影響を与えているのではなからうか。

中国人男子学生は争強好勝（強くなろうと負けん気になる）の心理が一般に女子より高い。また、過去において武を学ぶ男児は相手に打ち勝ち、男子の剛毅を示したものだ。このような理由により、中国人男子学生が中国武術に護身の魅力を認める度合いが女子より高いのではなからうか。

一方、中国人女子学生は中国武術の護身価値よりも健康増進の認識をもっていた。これは一般的に女子の性格が、比較的繊細で心が比較的温和であることが間接的に影響しているものかもしれない。

本研究では、武術の魅力の度合いを調査した以外に、中国武術の発展を阻害する要因についてもまた調査した。調査の結果、男女は一般に中

国の一連のマスメディア側が他のオリンピック種目のように取り上げず、武術に対して宣伝力が不十分であると認識している。

また、中国人学生の多くは中国武術が中国の伝統文化の一部であると認識しているが、中国人自身の中でさえ自分達の武術を軽くみしており、中国武術に真の理解を心得ている人が少ないことを述べていた。

さらに、中国人男子学生はやはり中国武術の訓練が相当苦難であると認識しており、中国人女子学生は中国武術の訓練過程が球技などの種目のようにはじめから非常な悦楽性があるものではないと認識していた。このことは、武術訓練が一つのある程度の過程の経過をしてからでないと、その悦楽面を発見できないためであろう。

武術動作でも特に競技武術の動作は難度が大きく要求が高い。仮に正確に動作の要領を把握できなければ、容易に怪我などをしやすくなる。中国人女子学生は特にこのような認識が高かった。これはまさに武術が順調に発展するのを阻害する原因の一つであるといえよう。

中国人学生に対しての面談過程の中で、男女とも中国武術の武徳に対し、尊師愛生（師を敬い弟子を愛でる）のように、哲学思想の中の陰陽のバランスがとれた全体観などの認識を述べたことであった。これは現代のいくつかの盲目的な選択の幅がない追従の流行の事物に対して、自分の伝統の中の優良な文化を放棄しているとの批判を述べていた。

一方、日本人学生では、広い場所の必要な長器械棍術の内容を授業に加えたため、人数が比較的多いときには場所が狭いので、練習場の大きさを認識させて、棍を大きく振り回さないように指導をしている。このため場所が狭いとの認識がでてきたのであろう。また、日本人女子

学生には理解しにくいとの認識が高く、日本人男子学生では太極拳の動作の繰り返しや動作がたいへんゆっくりしているなどと認識が高かった。

これらに対して中国人学生が男女ともが、一つの武術套路を正確に掌握することの認識とある程度の水準に達するまでの必要な時間があまりにも長いことが中国武術の発展を阻害する原因の一つになると考えており、日本人学生の認識と異なった。

以上のように日本人学生と中国人学生の中国武術に対する魅力や中国武術の普及を阻害する原因についての認識は、両国の学生間で違いがみられることが明かとなった。中国武術が日本の大学で行われるようになって17年を経過したが、両国間の学生の認識には画然とした違いがみられることから、今後、少しでも中国人学生の認識に近づけていくことが中国武術の真の魅力や正しい日本での普及活動に重要であると考えられよう。今後、そのような中国武術に対する学生の認識に変化をもたらす教育上の改善策を検討すべきであり、そのためのさらなる多くの研究が必要とされよう。

参考文献および引用文献

- ① 『武術』 体育学院、言教材編審委員会編、人民体育出版社、1978年、p.1-2
- ② 『中国武実用大全』 康戈武著、今日中国出版社、1990年、p.12, 16
- ③ 『理論教程』 中国武術段位制編写組編、北京体育大学出版社、1997年、p.28-29
- ④ 『武術理論基礎』 全国体育学院教材委員会審定、人民体育出版社、1997年、p.127-128
- ⑤ 「中国武術『長拳』の特徴と変遷」張成忠著（『武道学研究第34巻 第2号』）日本武道学会、2001年、p.46

